



# 天文資料

2020年12月号

令和2年度 第9号 (12月号)

令和2年11月27日

発行：佐世保市少年科学館

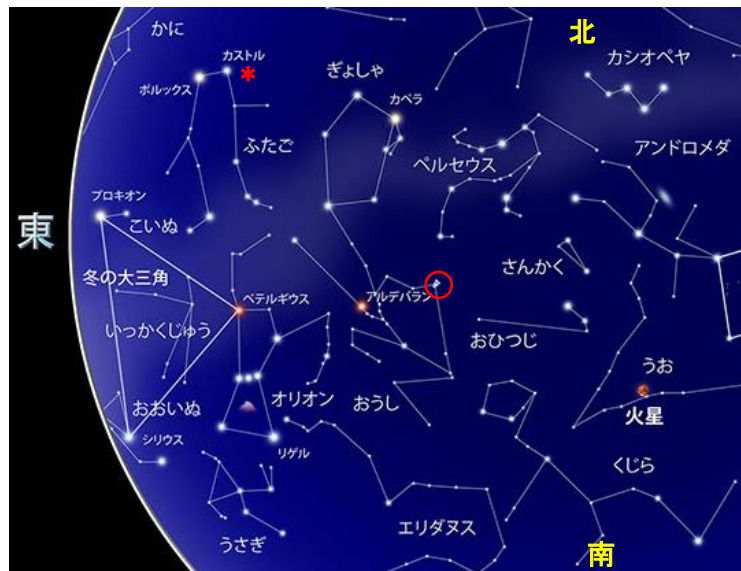
佐世保市少年科学館



## <火星が遠ざかり、東の空には冬の星座が続々と登場してきます。>

今年も師走を迎えました。コロナ渦の中での師走は大きなイベントも敬遠され、寂しい年末になりそうです。

12月の星空は、遠ざかる火星を見送るように冬の星座が続々と登場してきます。頭上にはまだカシオペア座・ペルセウス座・アンドロメダ座といった秋の星座がありますが、2等星が多いので、1等星の多い冬の星座には押され気味です。その冬の星座の最初に昇ってくるのがぎよしゃ座とおうし座です。ぎよしゃ座にはカペラ、おうし座にはアルデバランという1等星があります。また、おうし座には「すばる」の和名で有名なプレアデス星団(図中の○)もあります。ぼんやりとした雲のように見えますよ。



国立天文台 HP より

12月中旬はふたご座流星群も見られます。14日の夜が極大とみられますが、その前後数日間はその数が増えますのでこちらも注目してください。(図中の\*)の場所が放射点です。ここから飛び出すように流星が見られます。

## クリスマス前に南西の低空で素敵な天文現象が起こります ~♪

12月は夜6時半頃になると暗くなります。この時間に南西の低い空を見ると、金色に輝く木星と白く輝く土星がすぐ隣に輝いている姿を見ることができます。この2つの惑星の位置が12月20日から22日の間に入れ替わる現象が見られます。特に21日は2つの惑星の位置が非常に近く、肉眼では「くっついた！」ような見え方になるかもしれません。

この現象は、木星と土星の公転周期の差によっておよそ20年に1回の間隔で起こるものです。前回は2000年の5月下旬に起こりましたが、この時は日の出前の明るくなりかけた東の空での現象でした。しかも、2つの惑星の間も少し開いていました。それからすると、今回はとても見やすいでしょう。

クリスマス前の素敵な天文現象です。薄暗くなった夜6時頃から南西の空を見てみましょう。



## <野口聡一さん、3度目の宇宙へ！>

日本時間の2020年12月16日午前9時27分、野口聡一宇宙飛行士を含む4人を乗せた新型宇宙船クルードラゴンがフロリダ州ケネディ宇宙センターから打ち上げられました。クルードラゴンは民間初の有人宇宙船です。その翌日、クルードラゴンは国際宇宙ステーション(ISS)に到着し、野口さんは船内活動に入りました。



野口さんは船外活動にも意欲を見せているということで、今後どのような活動をされるのか楽しみです。野口さんを乗せたISSは、「きぼうを見よう」で検索すると見える日時を確認することができます。